

NHK ラジオ「夕方ホットトーク」

10月10日（火）午後5時30分～45分

「日本のなかのロシア」 長塚英雄さん出演

生対応

解説委員の山内です。今週のホットトークは日本とロシアの交流や歴史を考えます。きょうは「日本のなかのロシア」と題して、日本にかかわりのあったロシア人やそのゆかりの地を取り上げます。スタジオには「日本のなかのロシア研究会」を主宰する長塚英雄（ながつか・ひでお）さんにお越しいただきました。長塚さん、よろしくお願ひします。

（長塚）よろしくお願ひします。

（山内）

Q1：長塚さんは大変ユニークな研究会を主宰されています。日本のなかのロシアを研究するというのは、実際にはどういうことをされているのでしょうか？

（長塚）

A きっかけは出版社のブックレットの企画としてスタートしました。日露交流の史蹟を訪ねたり、発掘しそこに秘められた交流のドラマを取材します。主婦や通訳者、研究者、郷土史研究家に参加いただいて、研究会を開催し、探訪旅行に行くというものです。これまでに、沖縄の宮古島、北海道、五島列島、伊豆半島、三陸海岸、秋田などをグループで取材してきました。

（山内）

Q2：日本の中のロシアを研究されて、どんな発見があったのでしょうか？

（長塚）

A 日本全国にロシアゆかりの建物、人物、事件の足跡などを調査していきますと、150箇所以上の日本のなかのロシアゆかりの地を確認できました。西洋文化は南から、長崎からばかり入ってきたのではなく、ロシアから、北からも日本へたくさん入ってきたことがわかります。

（山内）たとえばどんなことでしょうか。

（長塚）江戸後期に、ロシアのアダム・ラクスマンらが根室に来航、ロシア漂流民・大黒屋光太夫をのせてきた時ですが、8カ月間も根室に滞在しました。そのときにスケートが伝えられたり、ヨーロッパ地図が入りましたね。

それから、ロシアから帰還した松前藩士・中川五郎次がロシア種痘法を紹介し実践しました。これは長崎より25年も早かったのですよ。

鎖国以後、洋式大型船の技術をもたらしたのはプチャーチンのヘダ号でした。日露修好条約交渉の最中に安政の大地震が勃発し大津波でプチャーチン提督のディアナ号は大破しました。戸田港で日本人大工も参加し替わりの艦船を建造したのです。

また、プチャーチンは長崎で江戸幕府の外国奉行や佐賀藩士の前で、日本で最初に模型蒸気機関車を走らせた。それはペリーより半年早かったのです。

(山内)

Q3：日本にゆかりのあるロシア人といえば、私はプロ野球・巨人軍のピッチャーだったスタルヒンを思い浮かべます。スタルヒンのゆかりの地というのはどんなところでしょうか？

(長塚)

A スタルヒンはロシア生まれでロシア革命で親とともに日本に亡命したのですが、北海道の旭川の小学校のころから「怪童スタルヒン」といわれるほどの投手で、中学校ではエースとなり日米親善試合にも抜てきされ出場しています。プロでは300勝を達成しましたので、旭川にはスタルヒン球場があり銅像が建っています。

(山内)

Q：お墓はどこにあるのですか。

(長塚)

A 東京で交通事故で亡くなりましたので多磨墓地に墓がありますが、もう一つ、スタルヒンの妻・高橋久仁恵の故郷の秋田・雄物川町の崇念寺に白球の形の墓を娘のナターシャらが建立しました。

(山内)

Q5：スタルヒンは軽井沢にもいたことがあるそうですね？ ロシア人と軽井沢、どんな関係があるのでしょうか？

(長塚)

A スタルヒン、ヴァイオリニストの小野アンナ、版画家のブブノワら多数のロシア人が「敵性国人」ということで、太平洋戦争末期に軽井沢に「抑留」されました。大木を切るという労働を強制され監視されていました。終戦で解放されています。

又、軽井沢は外国人の避暑地でしたから、ソ連大使館も万平ホテルに疎開しました。後に箱根の強羅ホテルに移りましたが。

いわゆる白系ロシア人がロシア料理店やパン屋を開いていたことでも軽井沢は知られていました。鳩山一郎夫人の鳩山薫子さんがピロシキが楽しみでよく

買い求めたことが鳩山日記に出てきます。

(山内)

Q 6：日露戦争時の捕虜収容所やロシア人墓地も日本の各地にありますよね？

(長塚)

A 日露戦争のロシア兵捕虜収容所は日本の29箇所がありましたから、ロシア人墓地は29箇所でしょう、という人がいますが、そうではありません。収容所で死亡者がいないところも8箇所ありますから。昭和史の捕虜虐待と違い、明治日本は捕虜の処遇は世界の優等生で、ロシア兵捕虜は日本市民と恋をしたり、スーツをつくったりということもありました。日本海海戦で流れついたロシア兵死者が秋田から山口の日本海岸の各地に漂着して慰霊されていますから、墓地は30箇所以上になります。戦争にかかわりない日本居住のロシア人などの外人墓地や海の遭難者墓地を入れると40箇所以上の数になります。

(山内)

Q 7：ロシアのマトリョーシュカという人形は有名ですが、実はルーツは日本にあるようですね？

(長塚)

A そうなんです。箱根の七福神の福祿寿がモデルといわれています。ロシア側専門家でもソロヴィヨフという方、アレクサヒンという方の本でもルーツは日本と結論づけています。伝播のルートは見解はまちまちですが、日露双方の研究者とも日本がルーツで一致しています。いまでは日本各地にマトリョーシカ絵付け教室が開かれています。ソ連崩壊後の1997年に日本で最初の「マトリョーシカ絵付け入門」の本を出したときに、ロシアの友人が「ロシア最大の国家機密が流失した」といわれましたので、お笑いをしました。

(山内)

Q 8：チョコレートで有名なモロゾフは神戸にゆかりがあるのですね？

(長塚)

A ことは、ロシア革命から100年ですが、そのときに亡命しハルビン、シヤトルなどを經由して大正時代に神戸モロゾフ製菓を共同経営したのがフォードル・モロゾフで、その息子がワレンチン・モロゾフです。贈り物を楽しむ、新しい習慣を育てようとモロゾフ株式会社が昭和11年に神戸で発行されていた英字新聞「ジャパン・アドバタイザー」に「バレンタインデーにチョコレートを贈ろう」という広告をだしたのが始まりといわれています。モロゾフは神戸外国人墓地に眠っています。

(山内)

Q 9：バレンタインチョコの最初の考案者は実はロシア人だったわけですね。反対にロシア人と多くの交流があった日本人と言えば、長塚さんは誰をあげますか？

(長塚)

A 江戸時代でいえばロシア外務省に勤務した橋耕斉、日本最初の通訳の志賀浦太郎、などがありますが、戦後でいえば東海大学の松前重義先生、根上町長の森茂喜さん、みちのく銀行の大道寺小三郎さんらがいますが、一番は秋田県横手市出身のハープ奏者の阿部よしゑさんでしょう。

(山内)

Q: その阿部よしゑさんとはどんな人ですか。

(長塚)

A 彼女は、1932年に、モスクワの日本大使館員として赴任、ドンの川岸にミハイル・ショーロフを尋ね親交を深め、モスクワ芸術座に通い、ボリショイ劇場の首席ハープ奏者クセニヤ・エルデリに師事しました。その間、女優のオリガ・クニッペル、作家のイワン・ブーニン、日本学者のニコライ・ネフスキーやニコライ・コンラッド、画家ピョートル・コンチャロフスキー、作曲家のセルゲイ・プロコフィエフら各界の著名人と深い交流をしたことで知られています。パリ音楽院を卒業、東京芸大初代のハープ専任教員となった方です。

(山内)

Q 10：その阿部よしゑさんは当時、映画でもハープを演奏されたそうですね？

(長塚)

A ええ、名画「ビルマの豎琴」のハープは阿部さんのものが使用され、彼女が演奏されました。

もう一人あげるとすれば、意外に思われるかもしれませんが、野口英世博士です。福島県の猪苗代町の野口英世記念館を訪れた方はお分かりとおもいますが、野口英世の銅像はセルゲイ・カニョンコフというロシアの彫刻家がつくりました。野口が所属していた米国のロックフェラー医学研究所のレービン博士はペテルブルグ軍事アカデミーから来ており、親交したロザノフ博士はロシア移民で、野口の助手ブロンフェンブレナーもユダヤ系ロシア人でした。パリのパスツール研究所のメチニコフとの交流もよく知られていますし、彼自身もアフリカへ行く船の中でロシア語を学習していたことが伝えられています。

(山内)

Q 11：長塚さんはロシアゆかりの地をめぐって各地を飛び回っておられます

が、改めて日本のなかのロシアについてどんな印象をお持ちですか？

(長塚)

A 日朝、日中のように長い歴史関係がない日露はわずか300年ほどですが、日本文化に与えた影響はきわめて濃密なものでした。明治以降の歴史において、音楽芸術ではケーベル、プロコフィエフ、ストラビンスキー、レオ・ヒロタ、小野アンナ、パヴロワ、ブブノワ、メッセレルなど数え切れないほどのロシア人芸術家が日本に影響を与えてきました。とくに、明治大正時代のロシア文学の受容、戦後のロシア民謡ブームは日本文化の基層を形成しているといっても過言ではありません。

(山内)

どうもありがとうございました。きょうのゲストは「日本のなかのロシア研究会」を主宰している長塚英雄（ながつか・ひでお）さんでした。